

ふれあい公園に看板を 6年

道の駅あわくらんどの道向かいにある「ふれあい公園」。もっとたくさんの人に活用してほしいと6年生が計画中です。

12 つくる責任
つかう責任



11 住み続けられる
まちづくりを



1学期の学習を振り返り、使い方を伝える看板とイベントづくりを考えていきます。

看板には目的がある。伝えたい相手に見てもらえる工夫がいる。相手意識やモノづくりの視点を木薫の國里さんが教えてくださいました。

板状の看板でなく、四方から見える看板のアイデアが6年生から出ています。

そして、どんな人に見てほしいのかを考えます。子どもの身長、一緒にいるお母さんの身長。巻き尺で高さの見当をつけながら高さを決めていきました。



公園でできることを出し合う中では、「缶けりは、ずっと缶を転がしておくのはよくないよね。これは、イベントにする方がいいかもね。」と助言をいただきながら進んでいます。



毎回、新しい考え方（視点）にふれながら、考え進めていく。一つ一つ解決しながらの学習にチャレンジです。